

第 3 回大船渡市総合計画審議会議事録

日 時	令和 2 年 11 月 2 日（月） 午後 1 時 30 分～3 時 30 分
場 所	大船渡市役所本庁 地階大会議室
出席者	<p>〔委員〕 吉野英岐、米谷春夫、菊池司、舩砥秀市、齊藤俊明、田村福子、金野律夫、佐々木好子、門田崇、臂徹、江刺由紀子、刈谷忠、今野良子、白木澤京子、中村純代、清水恵子、畠山博史 計 18 名</p> <p>〔市職員〕 副市長 志田努、教育長 小松伸也、災害復興局長 佐々木義久、企画政策部長 武田英和、総務部長 田中聖一、協働まちづくり部長 新沼徹、生活福祉部長 金野高之、商工港湾部長 近江学、観光推進室長 千葉讓、農林水産部長 鈴木満広、都市整備部長 阿部博基、水道事業所長補佐 新沼秀樹、議会事務局長 鎌田征喜、教育次長 遠藤和枝、消防長 大久保守正</p> <p>〔事務局〕 企画調整課長 伊藤喜久雄、課長補佐 山口浩雅、課長補佐 迎山光、係長 田村勇貴、主事補 大和田瞬、パシフィックコンサルタンツ(株)課長 三好健太郎</p>
会 議 内 容	
<p>午後 1 時 30 分、武田企画政策部長の進行により開会。</p> <p>武田企画政策部長が、会議の成立について、委員 19 名中 18 名の出席により会議が成立していることを報告した。</p> <p>続いて、米谷会長からあいさつ。要旨は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の審議会では、市政懇談会やグループインタビューの開催状況、後期基本計画の進捗状況の説明を受け、検討いただいたが、本日は基本構想の素案や、施策の体系骨子について、議論を深めてまいりたい。 ・昨今の報道を見ると国では、「活力ある地方の創生」、「デジタル社会の実現」、「グリーン社会の実現」などを推し進めることとしている。デジタル社会の実現はスマホなど身近なテクノロジーを活用していく社会、グリーン社会は環境にやさしい社会かと考えている。 <p>その後、総合計画審議会条例の規定により会長が議長となり、米谷会長が以降の進行を行った。</p> <p>○議事(1) 大船渡市総合計画 2021 基本構想（素案）について</p> <p>事務局（迎山企画調整課長補佐）から、資料 1、2、3 に基づき説明。</p> <p>以下、質疑応答。</p> <p>白木澤委員) 29 頁の第 6 章土地利用について、前回とほとんど内容が変わっていないと思うが、将来の土地利用の方向を定めるには「未利用地の活用」について示してはどうか。市の 8 割を占める森林の活用・保全を図るべき場所がどのくらいあるのか、市政懇談会やWSでも未利用地の話があった。未利用地の現状を見える化することで将来の方向性が明確になるかと思うがどうか。</p> <p>武田企画政策部長) 土地利用については根本に国土利用計画法があり、その下に様々な計画がぶら下がることになる。すでに岩手県の土地利用基本計画で定められている部分がここに記載されている。大船渡市にある地域区分は資料にある 4 種類となる。未利用地もあり、大事な視点でもあるので総合計画に記載するかどうか検討する。</p> <p>刈谷委員) 沿岸部の自治体ということだろうか。少子高齢化についてはいずれも同じかと思う。沿岸部は地域性など共通する部分も多い。そうであれば各自自治体が策定する計画も類似性が高くなると思う。他の自治体と差別化できるものは何か教えていただきたい。</p> <p>武田企画政策部長) 沿岸部の中での特徴ではないが、時代の流れとしてデジタル化、SDGs などが求められているところである。大船渡市の特徴は素案の中で整理している。例えば 15 頁に市の特性にまとめている。豊かな自然環境、国際化、水産振興、賑わい創出など、こういったことを</p>	

メリットとして活かすという方向性を示している。

米谷会長) 大船渡固有のものがどれだけあるのか。将来都市像も他のまちでも成立し、物足りないように感じる。他の都市を見ても同じようなものであるが、独自性、フレーズを見ただけで大船渡だとわかるようにしてもらいたい。

臂委員) 第7章の施策の大綱、第8章の重点プロジェクトも重要だと思うが、感想として施策の大綱と重点プロジェクトとの関係が分かりにくい。「大綱の中で、この部分は重点プロジェクトに入れている」という可視化をお願いしたい。

門田委員) いろいろ話が出たので共感する部分もあるが、現状分析があって、課題があって、将来都市像があり、耳障りはよく、このとおりだと思うが、心に入ってこないという印象がある。というのも今までの10年の計画とあまり変わっていない、これから10年をどうするのが希薄かと思う。

最近、総理が自助・共助・公助と言い、これと合わせて「ともにつくる」「協働の」という言葉が出てくるが、それは自助、共助の現れかと思う。気になるのは「公助」の部分をきっちり示していただきたい。「行政はこれをやる」ということを示して、その上で自助・共助をお願いしたいというメッセージを市民は待っているのではないかと。市民は自助・共助への意識は高く、あとは公助への関心を持ちながら待っているのではないかと。それが分かるようになれば市民のやる気も起きてくるのではないかと。

米谷会長) 核心をついた発言だと思う。

畠山委員) 今までの話と重複して恐縮だが、私も将来像を見た際に、市の指針の前段としてどういう方向に進むのかという方針が欲しいと思った。これが市長から今後最も多く発せられるメッセージになると思うし、市の将来像の設定は諸々の課題からボトムアップで考えていると思うが、行政と仕組みとして、上に行くにつれて抽象的になりすぎて将来像が何でもありになっている。昔のように「国際港湾都市」などのフレーズがあって、その下に各種施策があるという考え方が見てくる方が良い。総花的にすることで注力すべきところがバラバラになりがちなので意思を統一するビジョンが欲しい。

施策の実現に当たって税収確保が必要だと思うが、全国から大船渡に来てもらうためには他に埋もれてしまわないように、はっきりした違いを出していけないといけない。

米谷会長) 10年スパンでも具体性、大船渡らしさ、三陸の拠点となるべき気概を示すべきだと思う。

企画政策部長) 将来都市像の設定の考え方は資料2に示しているが、そういった部分も含みながら、これからは市民の協働が大事だろうということで整理しているのが今の案になっている。現在の将来都市像は10年前に作ったが、その時と違い、当時は復興で震災前より高い位置に軟着陸させようと取り組んできたが現在は少子高齢化、人口減少が進み、「持続可能性」という考え方が重要になっている。

華々しい未来というより安心をベースに安定した生活というということも大事で庁内で話し合いもしてきた。いただいた意見を参考に今後も検討させていただきたい。

副市長) 委員の皆様の船渡らしさが不足しているという点、大船渡の独自性を出すためにはどういふものがあるか、庁内で検討したい。

江刺委員) 一連の流れを聞いて思ったが、現状の課題を解決すべくすべてを網羅しようとしているので網羅的になるのではないかと。これが大船渡の特徴だというのは、どこを重視するのかを見せる必要がある。要は見せ方の工夫が必要かと思う。

今回はSDGsの17のゴールも示しているが、その中で「これとこれを重視している」ということを示していけばわかりやすいのではないかと。

武田企画政策部長) 全体を網羅してわかりにくくなっているという意見ありがたい。資料4に総合

計画は市の最上位計画とすることが示されている。その下に様々な計画を立てる。こうした部分でより細かく定めていくことになる。市の最上位計画として、市の総合的な計画にならざるを得ない部分もあるが、SDGsのことは参考にさせていただきたい。

○議事(2) 大船渡市総合計画 2021 施策の体系骨子(素案)について

事務局(迎山企画調整課長補佐)から、資料4に基づき説明。

以下、質疑応答。

畠山委員) 前回審議会の資料では、重点プロジェクトに「ILCと共生するまちづくりビジョン」があったと思うが、それがなくなったのはどういう理由か。

事務局) 前回お配りした際には、重点プロジェクトにILCの件を記載していたが、第8章40頁にある、「第2期大船渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」にILC促進プロジェクトと位置付けており、書きぶりを深めて重点プロジェクトとして一本化を図ったもの。

齊藤(俊)委員) 人口減少に歯止めがかからない。どうなるのか心配しているが、どの地域も人口減少問題を抱えているが、それを補うために交流人口を増やすという考えを持ち、その主眼は観光振興だと位置付けていて、地域間競争が激しくなると思う。

観光振興にも特徴が必要。「地域資源を最高に輝かす」ということに尽きる。県内各地に郷土芸能があるが、大船渡はいろいろある。各地にあるのは権現様。綾里のお祭りを見に行ったが、皆が集まっての踊りは圧巻だった。それで郷土芸能協会に入っているかどうか分からないが権現様ほど地域に愛されているものはない。花巻のパレードは圧巻。大船渡市は権現様で集まると思うので正月に大パレードをやって「大船渡と言えば権現様」ということを示せばいいのではないか。そういう資源を光り輝かせることこそ大船渡の観光振興をなせるのではないか。

千葉観光推進室長) 郷土芸能の活動は獅子舞など40以上あると認識しており、それぞれの連携はほとんどないと思われる。高齢化により人集めに苦労していることもうかがっている。綾里大権現も保存会から存続が困難との相談も受けていて検討をしているところである。綾里大権現と連携してのパレードは壮観で、観光振興にも効果が大きいと思われるので、関係者と実現可能性について意見交換していきたい。

佐々木委員) 齊藤委員の話に近いが、小中学校では剣舞、獅子踊りを体験して、その体験は自慢できるものだと思っている。小中学校の統合が進み、そうした地域の行事が減っていくのではないかと危惧している。各地区の特徴を活かしながら体験を引き継ぐ郷土教育を進めていただきたい。郷土芸能をきちんと伝えていけば子供たちの自信にもなり、高齢者のやりがいにもつながると思う。

交通の便が悪いことで大船渡に宿泊する方も多いと推察している。「大船渡に泊まってHappy大作戦」の利用も多く、宿泊・飲食・購買にもつながっている。

菊池委員) 農業の分野について、農業の推進は大切だと思っている。農業の就労人口は減っている。魅力がない、儲からないということだろうと感じている。やはり農業の推進をしっかりとりたい。そういう中で農地の保全と活用という課題がある。農地の保全の関係では荒廃農地になりやすいのは過疎地の農地で、水源に近いところかと思うので、保全は重要な課題かと思う。

農地は環境保全の面でも効果があるのでぜひ進めていただきたい。大船渡は特産品として代表するものがない。いま、産地化を目指してピーマンなどをやっているが、それに向けての予算措置などを市に支援いただいて産地形成に力を貸していただければと思う。

小枝柿の木も放置されて実をつけて、サルのエサになるというのが現状。1haくらいは栽培しているが、いずれこれも後世に残すように市の方でもご協力いただきたい。包含するキーワードの中に入れていただきたい。

鈴木農林水産部長) いずれも重要なことと認識している。基本構想として全体の方針に示してして

いるが、今後、基本計画や部門別計画で具体的な施策に位置付けながら取り組んでまいりたい。
中村委員) 今回貴重な会議に関わらせていただいて、私は外から移住してきたという立場であるが、今回の施策の体系骨子の中で皆さんがおっしゃった通り、自分が感じている大船渡の魅力を拡げる言葉があると良いと思った。ここを大事としているというフレーズが入ると良いかと思う。私は海・山の恵みや、皆様の人柄に表れていることの良さがあると思う。そうしたものに支えられて今仕事をしている。どこもあるとは思いますが大船渡はそういうところが優れていると思う。将来都市像は外の人もともかく、住んでいる人たちにも「そうだね」と思ってもらえると良い。

観光を通じた交流人口の拡大も、私はすでに地域資源は揃っていると思っていて、埋もれている資源をもっと知ってもらえるような施策があると良いと思う。今回新たに加えている、滞在型観光の推進、発信などマイクロツーリズムとか大権現、大王杉、綾里の山歩き、観光船クルーズ、まちなみだったり建物だったり、外から来た自分にはとても新鮮に感じるもの。生まれた土地ではないが懐かしさを感じる。郷土芸能も素晴らしいと思っていて、外から来た人に知ってもらうにはどうすればいいのか、今あるものをどう活かすかを考えていくといいと思う。

キャッセンで秋の大収穫祭を行い、市とも連携しながら実施したイベントで、「久しぶりに外に出た、ありがとう」と声をかけてもらったのがとてもうれしく、その中には外から来た人を増やすだけでなく、今いる人が健やかに長生きして生産人口として関わっていただく、若い世代も大船渡は好きでありながら進学・就職で離れざるを得なくなっている中、関係人口として関わり続けるということも大事だと思う。その中でデジタル化の推進は大事なことかと思う。そしてマイクロツーリズムも含めてデジタル化の導入が、まちづくりとか大船渡の将来に子どもが関わっていくことを期待するので、デジタル化は施策にはいくつか関わっているが、さらに増やしていただきたい。オンラインの仕組み拡充を増やしていただけるといいと思う。

武田企画政策部長) 観光については骨子でもあるように滞在型観光などすべて組換えをしている。移住・定住の推進について、骨子の中に入れたが、移住定住が幅広い分野で取り組まないと実現しないだろうということで断念した。まち・ひと・しごと総合戦略の二番目に関係人口の課題の中に位置付けていて、移住・定住やILCのことも位置づけ、重点プロジェクトに位置付けている。前回の総合計画から引き継いだ部分であるが人口減少対策の最たるものだと考えており、移住定住を軽視しているのではないということを御理解いただきたい。

清水委員) 皆さんの発言を聞いて、この将来都市像案は頭にすんなり入ってこない感があり、わかりやすくイメージできる形であると、大船渡を紹介しやすい。

北里大学は毎年150名ほどの学生が大船渡に来る。その際に大船渡を紹介するために漁業者との交流も組み込んだ。震災以降「住むところがない」と敬遠しているという話も聞いた。実際には数か月滞在して研究したいという学生もいた。生活面での不安があるようだ。また漁業者になりたいという学生もいた。そうした体験をセッティングするのも大変だったので、大船渡を知ってもらおう意味でもショートステイへの支援をしてもらえれば学生との交流が進むのではないかと考えている。

金野(律)委員) 赤崎地区公民館長なので、赤崎を中心にお話しするが、41頁のスポーツ交流拠点形成プロジェクトについて、サッカーに特化したことになっていないか、まず伺いたい。

新沼協働まちづくり部長) サッカーのみということではない。サッカーの合宿の実績ができたが、それ以外も含めて交流をしていきたいと考えている。

金野(律)委員) 赤崎のグラウンドは多目的グラウンドになっているが、サッカーの利用と地域利用は両立できるのか。

新沼協働まちづくり部長) 地区との協議を経て、様々な形で使えるようになれば良いと思う。

金野(律)委員) サッカーに使ってもらえるのは良いと思う。ただ、赤崎グラウンドとして活用されるに至るまでの経緯が伝わっていない。

背景として人口減少があるということが書いてあり、それは大船渡市だけが減少しているのではなく、市内の各地区も疲弊しているので、しっかり地区と行政の協働についても対応を明記した方が良いのではないかと思います。

新沼協働まちづくり部長) 地区と行政の協働は明記しており、今後の基盤になるものと考えている。

地区と行政、市民と行政のほか、多くの方々が連携するということも重要なことかと考える。みんなが前向きに取り組める地域社会を形成することが重要と考えている。

田村委員) 水産業の振興とあるが、前回、船砥委員から養殖の話をついたが、養殖には漁業権が必要なのか。陸上でやる場合は漁業権は必要あるのか。

鈴木農林水産部長) 漁業権はあくまで海面を用いる場合に必要になる。陸上養殖には漁業権は及ばない。海水を取水するには関連する漁協から許可を得る必要はある。

船砥委員) 質問をいただいたホタテの陸上養殖は難しい。世界的には海洋深層水を上げて水温管理をしながら10日くらいは生かされる。潮が流れる中でプランクトンを摂取しているのがホタテ。餌をやって養殖するのであれば陸上で水を循環させることはできるが、ホタテや貝類は難しい。そのコストを賄える値段で買っただけなのであればできると考える。

漁業という面からは、39頁の重点プロジェクトの最初に「水産の競争力強化」があり、資料4の冒頭も水産業のことを示している。震災後、漁業は復興・復旧、そして震災前の姿に漁港・漁村等を戻して再出発するのだということによって復興してきた。ところが3、4年前からその漁業を取り巻く環境が激変して夏場の気温が上がり、海の中にも影響し、サンマやサケが取れなくなり、逆にサワラが獲れたり、1kg以上のタイが大量に入ってくるようになるなど激変している。施策体系骨子にあるような漁業資源の確保や担い手の育成等に取り組んでいて、今のところ入口である。市にも御理解をいただいた上で、農林水産部等の支援をいただきながら何とか成功させていきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

江刺委員) 資料4の3頁「やすらぎあるまちづくりの推進」について、安心には感染症対策の充実を挙げても良いのではないかと、世界中でまた新たなウイルスが発生するかわからないので、感染症にかかる項目を建てても良いのではないかと。そうでなければ右端のキーワードに入れるなどここに入れてもらいたい。

事務局) 感染者対策は大変重要。2/4ページの中段、「施策8生涯にわたる健康づくりの推進」に、「新たな日常」に向けた生活習慣や、新型感染症等対策をキーワードとして想定しており、この施策に書き込んでいきたいと考えている。

米谷会長) 人口減少の中、財政も厳しくなると思う。周辺都市との広域連携が大事になるのではないかと。どこのまちも立派な野球場、体育館なども作っていったら維持負担も大変なものになる。

まち・ひと・しごとは大事だが、人が一番大事で、大船渡市だけでも「ひと」を最初に置けないかと。

武田企画政策部長) 最後の施策「健全な行財政運営」のところで、公共施設等総合管理計画と、広域連合や一部事業組合のことについても触れている。その中に定住自律圏のこともあるし、広域行政についても位置付けている。

「ひと」を最初に持ってくるのは国の制度でもあるので、慎重に考えたい。

事務局) 法に基づいてこうした並びにしているが、「ひと」は資料1に示した課題にも記載している。まちづくりの基本は人づくりであるので、その点は示したうえでしっかり書き込んでいきたい。

米谷会長) 「ひと」を最初においても国は怒らないのではないかと。

吉野委員) 「大船渡らしさ」という話がよく出ているが、全体の印象としては大船渡の潮のにおいや森のにおいが文言から出てこないことを皆さん言っているのではないかと。安全・安心についても、クマなどの鳥獣被害も身近なのではないかと。野生動物と共存してきた中で危険性が高まって

いることをもっと入れてもいいと思っていたし、環境もマツクイムシやナラ枯れ病も県では重視している。大船渡の地理的な条件から発生していることも入れていかないと、後で政策を打つ時に根拠が薄弱になるのではないかと。総合計画は総花的になりがちだが、一言でも入れておくといふと思う。

キーワードと個々の文言のつながりが弱い気がする。キーワードと各項目のすり合わせをもう少しやってみようかと思う。

今回の目玉は 7 つの大綱の後に SDG s の位置づけを明確にしていることにあると思う。ただ、唐突感がある。「どうしてこれを行っているんだろう」ということが特に最初に書かれているわけではない。本当は「はじめに」のところにもそうした文言を入れておくと、今回の大きな取り組みであることを述べたうえで表を作ってもらえるといい。全体の流れと個々の政策とのつながりをもう少し意識してもらいたい。

都市的な話ばかりしないでもいいのではないかと。農林水産業が基幹となる大船渡市の生活課題という視点で書き込んでいいのではないかと。都市環境の創造というなか、大船渡市を「都市環境」と括っていいのかという疑問がある。生活環境くらいにして、あえて都市環境という表現にはしないか、あるいは都市以外のことも考えているということを示した方がよい。

事務局) 大綱 4 の都市環境について、当市は全域が都市計区域ではないのでそのとおり整理したい。SDG s のつながりについても整理させていただきたい。

島山委員) 「ひと」を先に持ってくるのは賛成、限られた税収をどこに投資したら最大のリターンが帰ってくるのかを重視していくことが良いのではないかと。ILC と共生するまちづくりビジョンでは、その中の将来像を段階的に書いているが、最終的に目指す将来像が世界的な人材育成を掲げている。これはすごく期待を膨らませる、明るい未来を想像させるビジョンに共感する。ILC が来る、来ないに関わらず、こういう方向で行ったらいいのではないかと。

若い世代が地方に移住するにあたって、ネックは子供教育だと思う。都市部は多様な教育機会に恵まれているところ。地方はどうだろうとそこは引っかかる部分ではある。少子化の中で親が投資する金額は大きくなるものと考えられる中、未来を切り開くというビジョンを掲げているのは強い道具になるのではないかと。

教育長) ILC の誘致に係る取組も含めて、大船渡市として特徴ある計画にどうすべきは基本計画で示していきたい。良い意見をいただいた。

米谷会長) 未発言の方は今後温めておいていただいて、本日の議論はここまでとしたい。

○議事(3) その他

事務局) 次回、第 4 回の審議会は、12/21(月)午後 1 時 30 分から、シーパル大船渡において開催予定。あらためて案内するとともに、その次の第 5 回審議会(1 月頃)についても日程が決まり次第、お知らせする。

委員の皆さんに「提言票」用紙を配布している。必ず提出していただくというのではなく、本日の審議会で発言できかねた場合等には、ファックス、Eメール、メモ書きなどどんな形でも構わないので、事務局あて御意見をお寄せいただきたい。

午後 3 時 30 分閉会。